

2050年の目標:美しい星50(Cool Earth 50)

美しい星へのいざない「Invitation to “Cool Earth 50”」
 ~ 3つの提案、3つの原則 ~

〔国民運動展開〕
 <6%削減目標の達成に向けて>
 「1人1日1kg」を
 モットーに、努力と
 工夫の呼びかけ

〔現状〕

1. 米国	22%
2. 中国	18%
3. ロシア	6%
4. 日本	5%
5. インド	4%

〔中期戦略〕
 <2013年以降の枠組み構築に向けた「3原則」>

- ①主要排出国が全て参加し、京都議定書を超え、世界全体での排出削減につながることを。
- ②各国の事情に配慮した柔軟かつ多様性のある枠組みとすること。
- ③省エネ等の技術を活かし、環境保全と経済発展とを両立すること。

〔長期戦略〕
 <2050年半減に向けて>

「革新的技術開発」

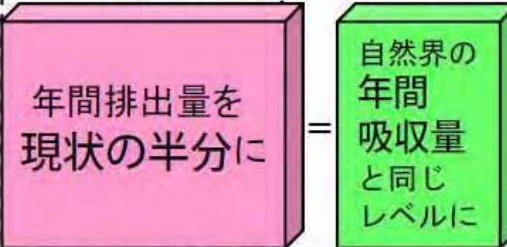
- ・石炭火力発電の排出量ゼロ
- ・原子力発電の平和利用推進
- ・太陽光発電の高効率化
- ・燃料電池など次世代自動車
- ・製鉄など産業技術の飛躍

「低炭素社会づくり」

- ・自然と共生した生活
- ・公共交通機関の活用
- ・コンパクトなまちづくり
- ・「もったいない」の心、「日本モデル」の発信

【2050年】

【世界に共有を呼びかける目標】



途上国
約6割
(推計)

<日本の役割>

- 過去30年間でGDP 2倍、石油消費量 8%減
- 日本の提案に応える途上国支援のための資金メカニズム構築
- GDP当たりのCO2排出量が世界一少ない
- エネルギー効率に関する東アジアの取組を世界に拡大

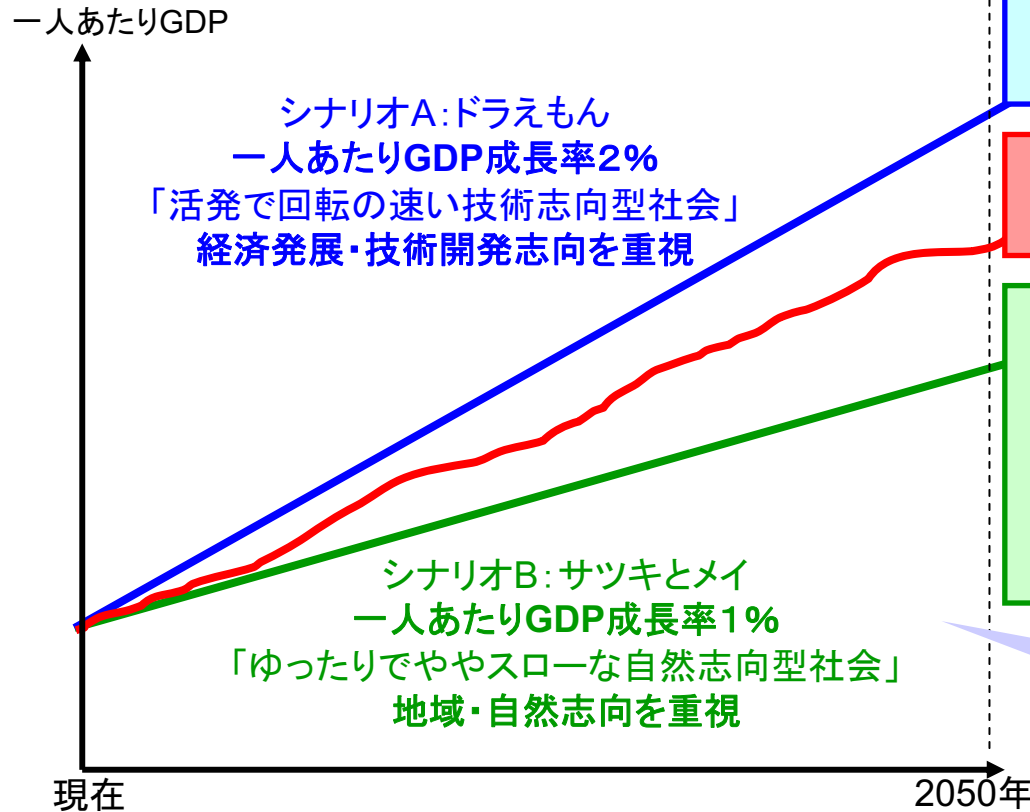
2007年 4月	6月	9月	11月	12月	2008年 7月
日中・日米首脳会談	ハイリゲンダムサミット(G8)	APEC首脳会議	東アジアサミット	COP13	北海道洞爺湖サミット(G8)

大気中の温室効果ガス濃度の安定化

「美しい星」
(Cool Earth) の実現へ

『2050日本低炭素社会シナリオ』による将来像

『2050日本低炭素社会シナリオ』: 技術イノベーションと住みやすい街づくり等社会そのものを変革するようなイノベーションを織り込み、2050年の望ましい将来を想定し、2050年段階における我が国の削減ポテンシャルを推測した、国立環境研究所を中心とした「脱温暖化2050プロジェクト」調査の成果報告



2050年の産業の姿

第一次産業
シェア低減・輸入依存率増加
第二次産業
高付加価値化進展・海外生産拠点
第三次産業
シェア増大・生産性向上

両シナリオの調和・混在

第一次産業
シェア回復・農林水産業復権
第二次産業
地域ブランド・多品種少量生産
第三次産業
シェアやや増大・ボランディア普及

特に活躍が期待される人材

工業系技術者
および
第三次産業の従事者

全産業の従事者

どちらのシナリオとなっても、日本はCO2を1990年比で70%削減するポテンシャルを有する！